



認知症の種類と特徴

認知症は原因となる病気によって、さまざまな特徴があります。

一番多い認知症

アルツハイマー型認知症

女性に多く、進行は緩やか。記憶障害が著しく、特に最近の記憶(短期記憶)が不得意になります。うつ状態がみられることもあります。

〈特徴的な症状の例〉

同じ質問を何度も聞く
物事の段取(食事の準備など)が悪くなる
日にちがわからなくなる
約束をすっぽかす など

脳梗塞、脳出血などが引き金

血管性認知症

男性に多く、脳の血管障害で脳細胞が死滅することで発症します。脳血管障害のリスクとなる高血圧や糖尿病などの治療・改善が予防につながります。

〈特徴的な症状の例〉

意欲が低下する
もの忘れがあるわりにはしっかりしている(まだら認知症)
手足の麻痺がある など

幻視が起こるのが特徴

レビー小体型認知症

初期の頃はもの忘れより、うつ状態、失神、震えといった症状が出たり、幻視(目の前にないはずのものが見える)を認めたりすることがあります。

〈特徴的な症状の例〉

子どもや虫が見えると言う
夢を見て反応して大声を出す
もの忘れは軽い など

難病にも指定

前頭側頭型認知症(ピック病)

もの忘れの症状は軽く、意欲や理性、感情をコントロールすることが難しくなります。万引きや無銭飲食などで周囲を困惑させることも少なくありません。

〈特徴的な症状の例〉

同じ時間に同じ行動をとる
同じ食品を際限なく食べる
周囲を顧みず自己本位な行動が目立つなど

若年性認知症

65歳未満で発症する認知症の総称です。

まだ若いということで、診断までに時間がかかります。うつ病などの精神疾患と診断されていることも少なくありません。

〈こんな症状に注意〉

書類の整理が難しくなった
家事に時間がかかる
打ち合わせの約束をしたことを忘れる など

